

## 「肝細胞癌切除例における臨床病理学的検討」に関するお知らせ

このたび、当院で肝切除を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、埼玉医科大学国際医療センター臨床研究 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

### 研究の概要について

#### 1. 研究の対象となる方

2014年01月01日から2024年12月31日の期間に埼玉医科大学国際医療センターを受診し、肝細胞癌と診断され、肝切除を実施した18歳以上の患者さんを対象としております。なお、試験開腹や審査腹腔鏡のみで終了となった患者さん、病理結果にて肝細胞癌以外の診断となった患者さんは対象外とします。

#### 2. 研究の目的

肝細胞癌は日本でも発症率が高く、がんによる死亡原因としても重要な疾患です。肝細胞癌に対する肝切除は、有効な治療法として確立されています。しかし、もともとの肝機能や手術後の再発率は、患者さんが元々持っているウイルス性肝炎とその治療歴、代謝性疾患、自己免疫疾患などにより左右されるため、肝切除の有用性については様々な見解があります。

本研究では、当院で肝細胞癌に対して切除を行った患者さんについて、患者さんが元々持っている肝疾患やそれに対する治療歴、術前の肝機能、手術術式、手術標本の病理結果などを検討し、手術後の再発、長期的な生存率を比較・解析します。これにより、肝細胞癌の患者さんに対してより安全で効果的な治療を行うための知見を得ることを目指しています。

#### 3. 研究期間

病院長の許可後～2030年03月31日

#### 4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後から、約1か月程度

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

### 研究に用いる試料・情報について

## 1. 試料・情報の内容

年齢、性別、BMI、術前血液検査値、手術術式、手術日、手術時間、出血量、肝炎ウイルス感染と治療歴、代謝機能障害関連脂肪性肝疾患、自己免疫性肝炎、アルコール多飲、Child-Pugh grade、ICG 検査、病理学的因素、再発率、全生存率、再発後の治療

※この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学国際医療センターにおいて、研究責任者である影山 優美子が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

## 2. 試料・情報の取得方法

肝細胞癌と診断された患者さんの検査を実施した際に生じた検査データおよび診療記録等を用います。

## 3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

・埼玉医科大学国際医療センター 消化器外科 影山 優美子（研究責任者）

## 4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学国際医療センター 病院長 佐伯俊昭

### お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学国際医療センター 消化器外科 影山 優美子

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話：042-984-4111（土日祝日を除く 8:30～17:30）

○研究課題名：肝細胞癌切除例における臨床病理学的検討

○研究責任（代表）者：埼玉医科大学国際医療センター 消化器外科 影山 優美子